

四大テニス大会観戦

“グランドスマル制覇”

原田義則（65期）

十数年来下手なテニスを楽しんでいます。「イメージ・トレーニング」の一環としてテレビ観戦に加えて一流プロの生の試合を見始めました。国内で東レPPOやデビスカップの観戦に行きましたが、これに飽き足らなくなり「世界の一流選手同士の生の試合」を見るために四大トーナメントの観戦に行くことにしました。

まずは、昔住んだことがあります。勝手知つたるパリで2013年6月に開催された全仏オープンテニストーナメントからスタートし、14年1～2月の全豪オープン、同年8～9月の全米オープンと続き、最後は15年6～7月にロンドンで開催された「ワインブルドン選手権（全英）」観戦と、2年間をかけてテニスの四大トーナメントを制覇しました。

ゴルフでいえば四つのメジャー選手権（全英オープン、全米オープン、



ワインブルドン2015会場にて

全米プロゴルフ選手権、マスターズ・トーナメントを見て回ることに相当します。

「錦織圭の追っかけ」ではないのですが、幸運なことにこの2年間で錦織の実力もランキングもぐんと上がり、14年の全米では日本本人選手として九十何年ぶりかの準々決勝での勝利の現場に立ち会うことができました。

四大トーナメントにはそれぞれの特徴があります。全豪は街の中心部に近い会場でのカジュアルで親しみやすい雰囲気が特徴で、全仮は街も会場もおしゃれで、何が何でも進行はフランス語で行い、その上ラリーが続くという面白さがあります。また全米は試合の合間に音楽がいっぱいです、選手

2015年4月23日、二川から白須賀宿へ。白須賀宿は、かつて海岸沿いにあつたが、宝永4（1707）年の地震・津波で大きく被災したので坂上に移転しました。

急坂を下り「津波避難路」の表示が所々にある道を歩いて新居宿へ。全国で唯一、現存する江戸期建築の新居関所を見学した。

昔の旅人はここから船で舞坂宿へ向かつたが、私たちは電車で弁天島に行き、宿泊。翌朝、旧東海道唯一の脇本陣が残つていて舞坂宿へ。

舞坂宿の見付を過ぎると、約700メートルにわたり松並木が復元してある。浜松宿は太平洋戦争で大きく被災し、宿場の遺構は見られ

入場時のアナウンスが派手だったりしてお祭り感いっぱいのワクワクさせる雰囲気が特徴的です。ウインブルドン選手権（全英）はさまざま制服に身を包んだスタッフの数が非常に多く、ホスピタリティーにあふれています。緑のじゅうたんのようなコートで強制的に白いウエアを着せられる選手

たちも緊張感があつて特別で、やはり「キング・オブ・トーナメント」の感じがします。

会場だけでなく街全体・会場全体がお祭りのような雰囲気になる四大テニストーナメントを一度訪れるのはいかが？

東海道53次の旅（5）

二川から藤枝 清水計枝（64期）

2015年4月23日、二川かない。

5月30日、浜松から天竜川を越えて見付宿へ。急流の天竜川には、新天竜川橋が架けられ、歩道もある。

見付宿で泊まり、翌朝、旧見付学校などを見学して袋井宿に向かう。見学に時間を使いすぎて到着は予定より2時間遅れ。袋井市在住の72期生から、名物ぼたん餅の差し入れがあり、元気になつて掛川まで歩く。掛川城天守閣、御殿（国指定重要文化財）を見学。

島田に泊まり、翌日、金谷まで戻つて、大井川を渡る。川を渡つた所に川越しを管理していた川会所などが復元されている。島

田宿は大井川を控えて栄えたが、かつての面影はない。

藤枝宿は、日蓮上人が植えたという樹齢700年の久遠の松が見事であつた。



東海道の旅も中間地点を過ぎた。袋井宿・東海道どまん中茶屋で